

## はじめに

一九九〇年代の日本経済は「失われた一〇年」と言われた低成長時代であったが、その後も多少の変動はあったものの、基本的には低成長であったといえよう。その間、中国経済は年率一〇パーセントを超えるような高い成長を遂げ、ついに二〇一〇年には日本を追い越し、中国が世界第二位の経済大国になった。いま、わが国は時代の大きな曲がり角に差しかかっていると云っても過言ではない。新しい時代にふさわしい価値観が求められているが、すでにそうした価値観が芽生えつつある。それは「文化」活動である。

「文化とは何か」を定義することはむずかしい。しかし、少なくともその土地独特の「人間の生き方」こそが「文化」であろう。その土地の食や祭り、芸能、歴史、言語、風俗習慣などが「文化」である。「文明」が国境超えて世界中どこでも通ずる人間の普遍的な生き方であるとすれば「文化」をこのように定義することが可能であろう。

高度成長期には「文化」にお金を使うことに批判的であったが、今日では政府はもちろん地方自治体、国民の間でも「文化」に力をいれるようになってきた。多くの国民が物質よりも精神的なも

のを求めるようになり、「生活の質」を重視するようになったからである。

かつて、木村尚三郎が「私たちは今、歴史的転換期を迎えている。不景気とか、低成長時代とか言った言葉ですませることができないような、時代の大きな曲がり角にさしかかっている。これまで人間社会の最大の目標であった進歩や発展、そして独立独歩の精神が後退して、新しい価値観が芽生えつつある。そうした価値観の変化を見極めることなくしては、社会の将来も見えてこない」（木村尚三郎『耕す文化』の時代）P.H.P研究所、一九九二年、四三頁）と述べているように、時代の転換期にある現在、われわれは社会の変動との関係で「文化」の果たしている役割をあらためて再認識しなくてはならない。このような背景のもとに本書は次のような四点を日本の政治・経済・社会などの変化を踏まえ、地域社会の変動との関連において明らかにしたものである。

① 日本文化の特徴の一つとして重層性（三層構造）がしばしば指摘される。つまり、日本古来の伝統文化、中国大陸から流入した文化、西洋から流入した文化の三つである。伝統文化と新しい文化の関係はどうか。平準化と個性化をともないながら伝統的な文化が変容していく姿を明らかにしたい。

② 文化は人びとの価値観であり、生活様式であるとすれば、それぞれの地域に文化があり、文化はきわめて地域的に多様であるといえよう。日本の文化を外国文化と比較することも重要であるが、むしろアジアの国々、中国やインドなどと対比して日本文化の地域的多様性を明らかに

にする必要がある。

③ 今日、都市・農村を問わず地域の衰退ないしは空洞化が問題となっており、「まちづくり」「地域づくり」の観点からも文化が地域政策の手段として重要になってきた。それにもかかわらず、人口の減少・高齢化、若者の価値観の変化などによって伝統的な文化を維持することが難しくなってきたが、どう対応すべきであろうか。その一方で、新しい文化も芽生えつつある。新しい文化の担い手は誰か。「文化」を地域政策の一つとして考えると、その担い手をどう確保するかを考えなくてはならないであろう。

④ 一九九〇年前後から世界は「グローバル化の時代」を迎えたが、いまこれにどう対応すべきかが問われている。グローバルに考え、ローカルに行動する必要性が今ほど求められていると  
きはしない。

この原稿をほぼ書き終えて推敲中、二〇一一年三月十一日二時四十六分頃、三陸沖を震源地とする「東日本大震災」が発生した。国内観測史上最大のマグニチュード九・〇という地震であり、死者・行方不明者が一〇万人を超えた関東大震災（一九二三年）以来の大惨事であった。地震の時の日本人の行動について海外から称賛の声が上がった。中国は「未曾有の大災害で見せた日本人の冷静な対応に驚きの声」「日本人の冷静さを絶賛『マナー世界』の声」「あらためて証明された日本

人の民度の高さ、世界の人びとに印象残す」「震災でも秩序保つ日本人、『人に迷惑をかけない』精神」などといった報道である。これこそが、日本人の行動様式であり、「日本文化」であろう。大切にしたいものである。

なお、本書は二〇一〇年九月から一年間、中国・北京の外交学院に中部大学との交流協定にもとづき交換教授として派遣された際、大学院の講義ノートを基礎としてまとめたものである。私は、日本でもたえず、「われわれは日本が世界をどう見ているかよりも、世界が日本をどう見ているかが重要である」と言ってきた。その意味では今回、中国で日本の文化を考え直すチャンスを与えられたことに感謝したい。

出版事情が極めて厳しいにもかかわらず、今回もまた快く引き受けていただいた大学教育出版の佐藤守社長に感謝したい。本書が広く多くの人に読まれることを期待するとともにご批判をいただきたい。

最後に、本書の執筆にあたっては万全を期して誤字・脱字のないようにするため外交学院の学生、趙展さんに目を通していただいた。趙展さんは、成績優秀で北京市の日本語スピーチ大会や英語アフレコ大会などで毎回優勝している。記して感謝の気持ちをあらわしたい。

二〇一一年四月

北京・外交学院国際交流センターにて

中藤康俊

地域社会の変動と文化

目次

はじめに..... i

第一章 社会の変動と文化の創造..... 1

一. 経済発展と国民生活 1

二. 地域社会の変動 7

三. 戦後システムの再編成 14

四. グローバリゼーションの時代 18

五. 文化創造の時代 21

第二章 伝統文化の変容・再生..... 24

一. 雪国の風土と文化 24

二. 『遠野物語』と『武士道』 27

三. 寺院 33

四. 神社 38

五. 伝統芸能としての歌舞伎 41

六. 華道と茶道 45

第三章 文化の重層性……………49

一. 大相撲 49

二. 野球 52

三. サッカー 56

四. 東アジア競技大会 59

五. アジア競技大会 60

六. 世界選手権大会 62

七. オリンピック 63

八. スポーツの時代 65

第四章 文化の地域的多様性……………68

一. 祭り 68

二. YOSAKOIソーラン祭り 72

三. おわら風の盆 73

四. テーマパーク 76

五. 博覧会 77

六	ジャパンエクスポ富士	79
---	------------	----

## 第五章 文化政策とまちづくり

一	美術館	104
二	景観と街並み	117
三	河川	121
四	コンビニ	145

## 第六章 グローバリゼーションと文化

一	社会変動の波	150
二	グローバリゼーションと文化	152
三	日本企業の文化とトヨタ	156
四	文化産業論	158
五	多文化共生社会	160
六	文化政策と文化行政	163

## おわりに

地域社会の変動と文化

